

## 国立市コミュニティワゴン見直しの方向性について

国立市コミュニティワゴンは試行運行であり、利用状況、アンケート調査、寄せられた要望等をふまえながら、市民の生活の足として役立つものとして見直しを重ねていくことが必要である。

一方、ダイヤやルートなどを頻繁に変更することは、高齢者の利用が多い中で無用の混乱を招く恐れがあるため、抜本的なルートやダイヤの変更については、周知／広報も含めて十分な検討が必要である。

### 試行運行中の利用状況をみながら、必要とされているところにサービスを集中していく方向で見直しを実施していく

#### ■ 1 利用状況からみた見直しの方向性

①青柳ルート、泉ルートは、全便、福祉会館まで行く必要はない

⇒ホール、会議室などの利用時間帯にあわせた福祉会館行きダイヤを検討

②青柳ルートの午前 9～10 時台の便に月に 1-2 回乗り残しが出ている

⇒午前中の便数を増やす方向で検討。ただし車両は増やせないためダイヤで工夫

③泉ルートの利用は、旧くにつこバスに比べて大幅に減少している。また

・泉ルートは朝夕の通勤利用が多い（2 便と 13 便）。日中の利用は少ない。

⇒メリハリをつけたダイヤ設定を検討

④矢川・東ルートは、全体として 10 分ほど早めてほしいとの要望がある。

⇒第三小学校の先のスクールゾーンの時間にあわせてダイヤを再検討

#### ■ 2 要望等からの見直しの方向性

①矢川駅停留所（矢川通り西側いなげや横）を、ロータリー内に入れられないか（運行事業者からの要望）

⇒既に実査を行い、立川バス、立川警察から前向きな回答を得ている。

②泉ルートを、旧くにつこバスの「南プラザ」「泉南公園」を経て多摩川沿いに出るようにはできないか（委員、地元からの要望）

⇒実際にどの程度の需要があるのか、また、6/16 から泉団地バス停を発着する路線バスを増便済（平日の利用状況約 3 割増）であり、路線バスへの影響等も含めてよく検討する必要がある。

③谷保ルートを何とかして実現できないか（地元からの要望）

⇒車両制限令の条件を満たす道路が極めて限られる。まず、道路条件から設定できるルートを検討し、そのルートの有用性を検討。

④矢川・東ルートは、東地域から谷保駅に出たい、停留所が少ない、バス通りではなく住宅地の中を通すようにしてほしいなど（東地域地元からの要望）

⇒ルート見直しは道路条件からほぼ不可能。谷保駅アクセスは前回会議でも議論したが難しい。停留所の増設を試みるかどうか。